



列車で行こう！E.C.O^エ

通勤・通学・お出かけに、鉄道を利用しましょう！



本市の鉄道交通の現状

本市の鉄道交通は、南北に縦断する常磐線と、市中心部から北西部に延伸する磐越東線があり、鉄道の総延長は約七十kmで、十四の駅を有しています。

常磐線は、本市における首都圏などへの交通の大動脈です。また、磐越東線は、仙台方面への常磐線が原子力発電所事故などの影響により運行再開の見通しが立たない中、その代替路線として重要視されています。

しかし、鉄道交通の利用者は、人口減少や自家用車の普及に伴い減少傾向にあり、市内では平成元年度から二十四年度までに、約四十三％減少しています。

常磐線の東京駅への乗り入れが可能に

JR東日本では、平成二

十七年三月の開業を目標に「東北縦貫線（上野東京ライン）」の整備を進めています（図1）。

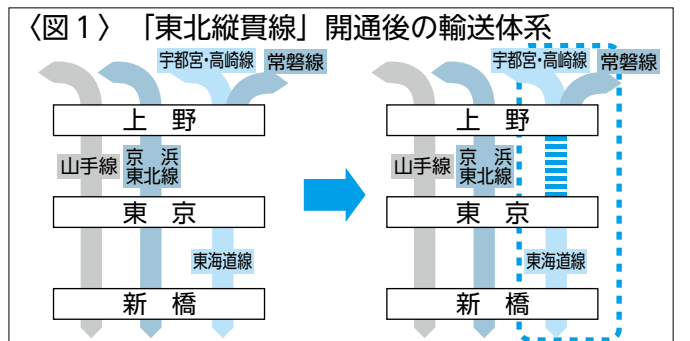
これは、上野駅・東京駅間の混雑緩和と直通輸送体系の構築、所要時間の短縮が目的で、開通によって、常磐線・宇都宮線・高崎線の列車は、東京駅への乗り入れが可能になります。

直通運転に伴い、乗り換えの負担軽減や都心への移動時間の短縮（標準時間で約九分）が図られます。

また、東京以西地域と本市とのアクセスが改善するなど、利便性が向上するとともに、観光業など市内産業の復興や、地域経済の活性化も期待されます。

乗り入れ本数獲得が課題

東北縦貫線は、常磐線・宇都宮線・高崎線の三路線



が一つの線路で東京駅まで乗り入れることとなります。しかし、常磐線は、宇都宮線・高崎線よりも、利用者が少ない状況です。

また、本市発着の特急列車は、茨城県内の乗降客が約八十％、本市内が約二十％となっており、さらに、茨城県発着の特急列車や通勤快速と比較しても、利用者が少ないのが現状です。このため、本市発着の特急列車の東京駅乗り入れ本数の獲得は、容易ではない状況にあります。

利用促進に向けた取り組み

市は、市民および事業者による鉄道の利用拡大を図るため「いわき市鉄道交通を応援する会」を、本年八月に設立しました。市内の各種団体が一体となって、鉄道交通の必要性について理解を深め、啓発

活動やノーマイカー通勤の拡大、鉄道サポーター等の育成などを行い、全市的に鉄道の利用を促進していきます。

将来にわたって、公共交通を移動手段として維持できるよう、市民全体で積極的に利用を推進し、地域で守り育んでいく必要があります。

お問い合わせ
総合交通対策室
☎ 22・1120



利用促進の街頭啓発活動



鉄道交通を応援する会を設立

公共交通を守り育むポイント

通勤・通学・お出かけに利用しましょう！

歩く機会が多くなり、健康増進に役立ちます



交通事故のリスクが減り、安全で快適に移動できます



通勤・通学時間帯の渋滞緩和が期待できます



環境にやさしく、地球温暖化防止につながります



いわき市在京・地元各界交流の夕べを開催



ふるさといわきの情報を発信

いわき市在京・地元各界交流の夕べを8月26日、東京都港区の第一ホテル東京で開催しました。

交流の夕べには、地元の産業・経済関係者などや、首都圏で活躍する本市にゆかりのある方々約400人が参加。津波被災地における復興のまちづくりや、本市沿岸域での漁業の試験操業について情報発信を行ったほか、観光や企業誘致、小名浜港ポートセールス、新市立病院建設などの取り組みについて紹介しました。

参加者からは「いわきのPRの一助になれば」と思い、都内で、いわきの食材を使った催しを行った」との言葉をいただくなど、復興に向けた貴重な情報交換の場となりました。